

## 第69回 滋人教大会レポート

### 第2分科会（人権尊重のまちづくり）

#### 誰一人取り残さない家庭教育支援

草津市 生涯学習課 丸山 春菜

#### 《生涯学習とは》

「生涯学習」とは、一般には人々が生涯に行うあらゆる学習のことであり、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習の意味で用いられます。

また、人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択し学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会を指すものとして「生涯学習社会」という言葉も用いられます。

教育基本法第3条においては、生涯学習の理念として、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と規定されています。

#### 《家庭教育とは》

家庭教育とは、家庭で、保護者がこどもに生活習慣やコミュニケーションなど、生きていく上で必要なスキルを身につける手助けをすることです。

家庭教育は、こどもが基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやり、基本的倫理観、自尊心や自立心、社会的なマナーなどを身につけていく上で重要な役割を果たしています。

#### 《草津市の取組①家庭教育応援ナビ》

草津市では家庭教育を推進する取組のひとつとして、「家庭教育応援ナビ」（以下「ナビ」という）を2か月に1回の頻度で発行しています。これは、家庭教育で必要な情報をA4サイズ1枚にまとめて情報共有アプリ「シグフィー」や市のホームページで発信する取組です。

「ナビ」に先がけて、家庭教育の支援を図るために、生涯学習課が講師依頼や開催周知・参加とりまとめ等の講座運営の大部分を担い、保護者への学習の機会を提供する「家庭教育サポート事業」を平成26年度から実施していますが、「ナビ」は講座に直接参加することが難しい保護者に対しても、必要な情報が届くようにという趣旨で令和6年度から取組を開始しました。

今までの取り扱いテーマとしては、情報モラル・食育・こどもへの言葉かけ・読書・お金との付き合い方・体験活動などがあります。今年度は「こどもの自己肯定感と主体性向上のための働きかけ」というテーマで、家庭で実践できることとして、“こどもの意見を十分に聴く”ことを意識することが自己肯定感と主体性向上の第一歩になり得ることをお伝えしました。

こども家庭庁の「こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン」にも、こどもや若者にとって、自らの意見が十分に聴かれ、自らによって社会に何らかの影響を与

える、変化をもたらす経験は、自己肯定感や自己有用感、社会の一員としての主体性を高めることにつながるとあり、これから様々なことを経験していく子どもたちが積極的に挑戦し、自分の可能性を高めていけるようになるために、周囲の大人ができる働きかけについて、考えるきっかけを提供したいという思いからこのテーマで発信を行いました。

#### 《草津市の取組②絵本の交換会》

また、家庭教育のうち、読書習慣の形成を推進する取組として、「絵本の交換会」を今年度から新規事業として開始しました。

人生100年時代を迎え、市民誰もが読書に親しみ、生涯にわたり学び心豊かに過ごすことができる「読書のまち」を目指し、全世代・全市域で総合的に読書活動を推進するため、従来からある「草津市子ども読書活動推進計画」と「草津市の図書館運営計画」を内包した「草津市読書のまち推進計画」を令和7年7月に策定し、その新規事業の第1弾として取り組んだのが「絵本の交換会」です。

「絵本の交換会」は、家庭で読まなくなった絵本や児童書を持ち寄り、他の絵本と交換することで、必要とされる家庭に絵本を循環させるための場です。この取組のポイントは、こどもの成長とともに読まれなくなった絵本を“地域資源”として必要とする家庭に循環させて届けることで繰り返し活用できること、絵本の循環によりこどもが読みたいときにいつでも読める読書環境を整えることができることで、家庭での読書習慣形成をサポートできること、またそのことにより読書好きのこどもの育ちにつなげることができることの3点です。

また、持ち込んだ絵本には元の持ち主からメッセージを添えていただくことを推奨しており、大切に読んだ本が次の必要とされる方の元に渡る際に思いが伝わるようにという工夫も凝らしています。交換会の元手になる本として、市役所や各地域街づくりセンター等で寄付を募っており、年に1回は交換でなくてもプレゼントする機会を作る予定です。

#### 《誰一人取り残さない家庭教育支援のために》

家庭教育は、家族との触れ合いを通じ、「生きる力」の基礎的な資質や能力を育成するものであり、すべての教育の出発点であると言われています。

しかしながら、家庭教育を行うだけの時間的余裕や経済的余裕がない家庭が少なくはないことも実感としてあります。

家庭教育に時間やお金を割くことが難しくなくても、行政の発信をキャッチして家庭で実践していくこと簡単なことではなく、時間やお金を割くことが難しい環境にある家庭であれば尚のこと行政からの発信は届きにくいものだと感じています。

だからこそ、なるべく手軽に、経済的な負担なく生活に取り入れられるような工夫を凝らした家庭教育支援を行い、生涯学び続けることの楽しさ・豊かさをすべての人に感じてもらえるような取組を模索していきたいと考えています。